

あっという間に短い秋が過ぎ、もう師走。こどもたちは運動会や遠足、音楽会など大きな行事に参加して、心も身体も成長したのではないのでしょうか。今年もあとわずか。進級に向けて充実した毎日を過ごしていきましょう。今回のステップアップは、今年初めて行ったアプローチカリキュラム研修と幼稚園教諭、保育士合同研修会の4回目の様子をお伝えします。アプローチカリキュラム研修会では、幼児期から小学1年生にまたがる架け橋期において、滑らかな接続の重要性がクローズアップされています。校長先生、施設長、園長先生の参加も多く、「保幼小の連携、接続」「架け橋期のカリキュラム」への関心の高さを感じました。

アプローチカリキュラム研修会 8月28日(水) 産業プラザ PiO 154名参加
テーマ「幼児教育と小学校教育の連携と接続」 武蔵野大学 教育学部 幼児教育学科 教授 箕輪 潤子 先生

幼児教育と小学校教育の連携・接続について、アプローチカリキュラムを通して考える。

接続：こどもの育ちや学びがつながること（教育の連続性と一貫性）

連携：相互理解を図り、目的を共有して、互恵的に物事に取り組むこと
交流活動：幼児と児童と一緒に活動する、幼児が小学校に行く
保育者と小学校教諭が情報交換をする
保育・授業を見合う、一緒に研修する など

こどもの育ちや学びの接続を目指して、
幼児教育施設と小学校が連携していく

□保育者と小学校教諭では、こどもを理解するときの視点が違う
目標の中心が異なっている

幼児期：～楽しむ。～しようとする。（一人一人のこどもが目標に向かっていくことが楽しい。
一人一人のこどもが友達と遊ぶことを楽しむ）

小学校：単元の目標があってどのくらいできているか、到達目標がある。つまりきやすい所はどこかをさぐる。

□こどもの視点から接続を考える ～こどもにとって「小学生になる」ということは～

幼児期に、こどもが困らないようにいろいろなことをしてあげなくては、と思うが「小学生になって困らないように」ではなく、こどもが「小学生になろう」としている姿を、どのように支えていくかを考えることが大事である。
小学校生活を見通し・期待が持てるように自分の身の回りのことを自分でしようとすることや、困ったら助けが求められるようにする（小学校ではルールが多くなる）→困ったら聞けば大丈夫。

□考えてみましょう：グループワーク

保育者は小学校学習指導要領の「生活科」を読み、小学校教諭は幼稚園教育要領の「保育内容（環境）」を読み、5歳児の砂遊びの動画を見て、つながっていると思う部分に赤線、違いがあると思う部分に青線を引き意見交換をする。園によっても違う。いろいろなことを経験しておいた方が小学校に行ったときに困らないのではないかな。すべて準備をするわけではなく、やりたい、好き、やってみたいと思うことが大事である。

新しいことに向かっていくとき、心が動くことが大事、新しい知識を取り入れ、楽しさ、面白さを感じると、集中して取り組める

研修生の感想から

- アプローチカリキュラム研修は、中心は保育園、幼稚園の先生だが、小学校の先生も一緒に学ぶことで表裏一体的な理解となっていていいと思った。グループワークの中で、一緒に相談する場面もあり、とても分かり易かった。
- “幼保との円滑な接続”はずっと目指していることであり、今回の研修は、小学校も保育園も同じ地域の方でグループワークをしたので芯のついた話ができたように感じた。お互いに敷居が高いと感じていたが、今回で、少し隔たりがなくなり、今後は地域同士の連携を図っていきたい。

